

KN グローカルリサーチレポート

2024年5月
No.97

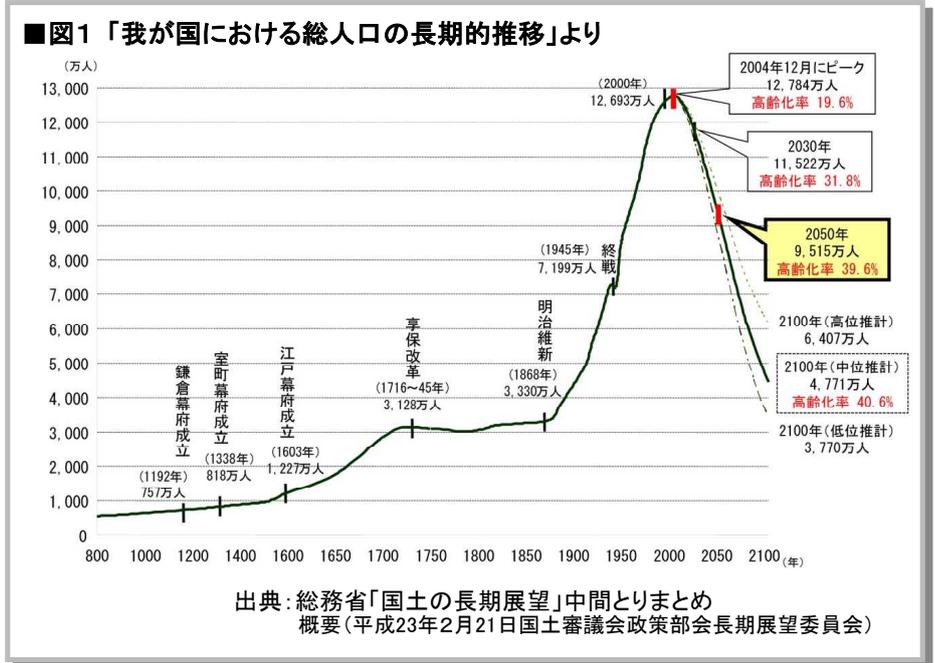


5月5日は「こどもの日」です。年々、こども（15歳未満人口）は減少しています。

左図は超長期の日本の人口の推移です。明治維新から急激に人口が増加し始め、戦後も人口が増加しました。

日本の人口のピークは、2008年の1億2,808万人で、そこから「坂を転がり落ちる」ように毎年人口が減少し続け、16年目になりました。

この図を見ると、近代の日本の人口推移は「特異なこと」と気づきます。



横軸の「年」の幅に注意が必要ですが、NHK 大河ドラマ「光る君へ」の平安時代、日本の人口は1,000万人未満だったのです。

浜松市の旧区別の将来推計人口

国立社会保障・人口問題研究所によると、浜松市の2020年の人口は790,718人で、2050年には657,052人と約13万人減少する。

■表1 浜松市の旧区別の将来推計人口 2023年推計

	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
旧中区	235,240	230,110	223,589	217,093	210,129	202,912	195,383
旧東区	129,356	128,215	126,236	123,754	120,876	117,606	113,996
旧西区	108,160	105,206	101,698	98,078	94,337	90,284	85,926
旧南区	99,769	90,551	94,086	90,796	87,298	83,695	79,933
旧北区	92,688	90,551	88,013	85,197	82,080	78,641	75,178
旧浜北区	98,779	97,354	97,724	97,598	97,159	96,335	95,101
旧天竜区	26,725	23,663	20,828	18,208	15,790	13,563	11,535

表1は浜松市の旧区別の将来推計人口で、図2は2020年=100とした、今後の5年ごとの数値である。

2050年には、天竜区は半分以下になるが、旧浜北区の人口減少は僅かで、旧西区と旧南区及び旧北区は約2割減少する。

■図2 2020年=100 の変化

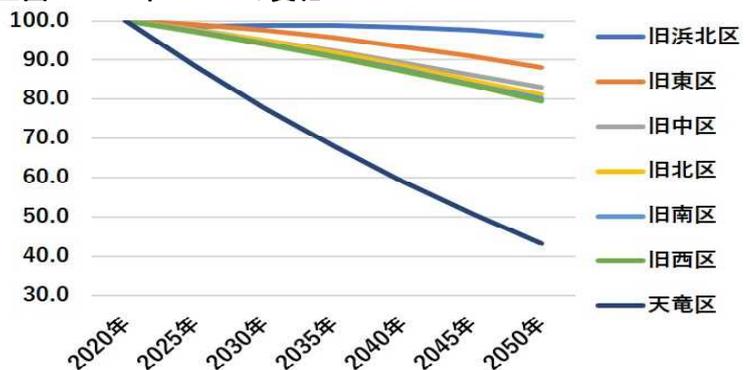
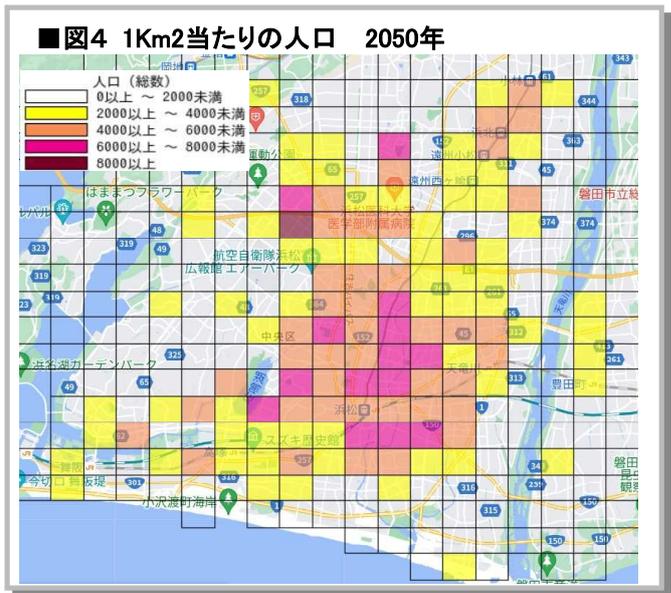
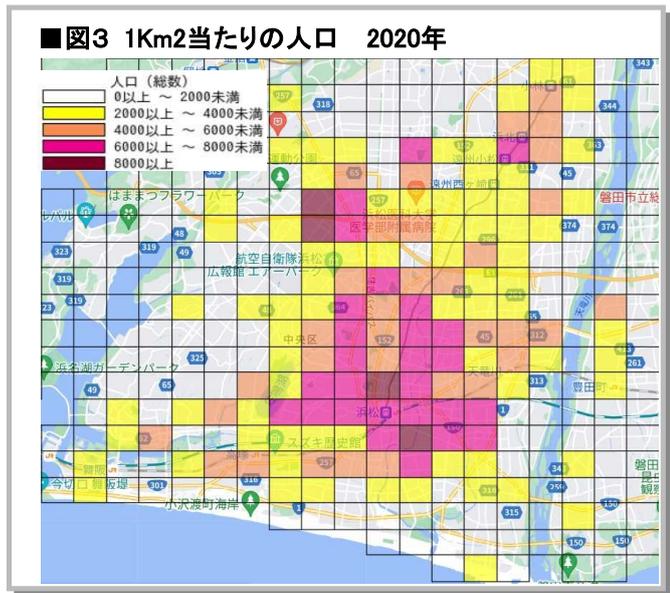


図3と図4は、2020年と2050年の「人口集中地区（4,000人/Km²の都市的地域）（赤系メッシュ）」である。図3と図4を比べると、同じような広がりであるが、2050年は6,000人/Km²のメッシュの数が少なくなっており、人口密度が下がる。



浜松市内の土地公示価格一前年比%

国土交通省が発表した本年1月1日現在の土地公示価格によると、浜松市内の住宅地で、前年に比べ上昇した地域は、旧中区：+ 0.89%、旧東区：+ 0.65%、旧南区：+ 0.18%で、下落した地域は、旧西区：- 0.56%、旧引佐3町：- 0.44%であった。

表2と図5は、上昇率が1.5%以上の地点で、15ヶ所あった。

JR浜松駅周辺の商業地や、高丘や染地台などの住宅地、新都田の工場用地が上昇している。

表2 上昇率上位15ヶ所 %

1. 中央1-8-27	2.96
2. 上島3-23-28	2.83
3. 助信町41-37	2.73
4. 高丘西4-7-9	2.48
5. 新都田4-3	2.37
6. 新津町176	2.00
7. 砂山町325-8	1.89
8. 住吉1-15-7	1.85
9. 下池川町20-4	1.83
10. 入野町726-3	1.79
11. 染地台4-6-25	1.69
12. 砂山町353-3	1.65
13. 板屋町102-13	1.62
14. 紺屋町308-4	1.54
15. 和合町936-410	1.52

図5 上昇率 上位15ヶ所



← バックナンバー 2024年4月25日執筆

***** お問い合わせ *****

西川公一郎 ((一財)日本総合研究所 客員研究員、防災士、元浜松市議会議員)

浜松市南区 在住 ko-ichi@24kawa.org